

フリードリッヒ・フレーベル著「母の歌と愛撫の歌」 を音楽から見た一考察

A review of Friedrich W.A. Fröbel's 「Mutter- und Koselieder」 from Music

井上 裕子

Hiroko Inoue

はじめに

フリードリッヒ・フレーベル (Friedrich W.A. Fröbel, 1782-1852) は、キンダーガルテン (子どもの庭) すなわち世界で最初の幼稚園を創設し、幼児教育に生涯を捧げたドイツの教育者、教育思想家である。ドイツ・チューリンゲンのオーベルヴィスバッハで牧師の末子として生まれたが、生後9ヵ月で母を失い、寂しい幼少期を送っている。その時彼を慰めてくれたのは、自然や植物や花の世界であった。

母の愛の大切さを身をもって感じていたフレーベルが、晩年1844年62歳の時に発行したのが「母の歌と愛撫の歌」である。彼はこの本について「私はこの書の中に、私の教育法の最も重要なものを示した。それは、自然に即した教育のための出発点である。なぜならそれは、人間の素質の萌芽が健全に、そして完全に発達するべき場合には、いかに育てられ支えられなければならないかという方法を示しているからである。」¹⁾と書いている。

「母の歌と愛撫の歌」に関しては、詩と絵と歌の三位一体で幼児の感覚を鍛え、感覚はすなわち心の働きであり、感覚の陶冶が精神の陶冶であるというこの本の素晴らしい教えを研究した先行研究は多数あるが、筆者は自らの専門である「音楽」に焦点をあて、この偉大な本を研究してみる。

またキーワードである「母」という言葉がタイトルに使われているクラシック音楽にも目を向け、何か関連性があるのか探していきたい。

「母の歌と愛撫の歌」について

「母の歌と愛撫の歌」は、フレーベルが母親に向けて書き著した家庭育児書で、1844年に発行された。詩は全58編でできており、① 母の感情を歌った歌7編 (誕生から生後6ヵ月ぐらい) ② 遊びの

歌50編 (生後6ヵ月ぐらいの赤ちゃんから6・7歳まで) ③ 結びの歌1編 から成っている。

各詩には美しい版画の絵と曲が付けられ、その絵の説明をしながら乳幼児期の教育・保育の内容と方法が語られている。歌の内容に合わせた銅版画は、フレーベルの教え子であるフリードリヒ・ウンガー (Friedrich Unger 1811-1858) が担当し、作曲は、カイルハウ学園 (フレーベルが開いた「一般ドイツ学園」) で、宗教及び音楽の教師をしていたロベルト・コール (Robert Kohl 1813-1881) が担当した。

分析にあたり今回は熊谷周子編著「母の歌と愛撫の歌」を使用し、コール作曲の作品だけを取り上げる。この楽譜では、コールは①の7編のうち2番目の「わが子をつくづくと眺め喜びに溢れる母」の詩にのみ作曲しており、それを「はじめの歌」としている。②の50編では、21番目の詩は2編あり21-1はコール作曲、21-2はフレーベル自身が作曲 (フレーベルが詩に付けていた数字譜を熊谷周子採譜) が載せられているが、この項目ではコールの作曲した作品研究が目的であるため、コール作曲の21-1だけを分析する。またコールが作曲していない詩に熊谷が訳詞をつけ作曲しているものが7曲と、熊谷が訳詞・編曲をしている「わらべうた」1曲については、上記と同じ理由で、分析は行わない。

1. 各曲の分析

1) 各曲、拍子・調性・テンポ・声部の順で記載し、2) 音域については、音域ごとでまとめて曲名を記載する。

1) ①「母の感情を歌った歌」

はじめの歌：3/4 ト長調－ホ短調－ホ長調－ハ長調－ト長調－ハ長調－ト長調－ホ短調－
ホ長調－ハ長調－ト長調 ♩=80 2声

②「遊びの歌」

1. あんよでタントントン：2/4 ト長調 ♩=120 2声
2. ぱったりこ 子どもがころぶ：2/4 ト長調－ハ長調－ト長調 ♩=126 2声
3. 搭の風見鶏：3/8 ハ長調 ♩=69 2声
4. おしまい：4/8 ト長調－ニ長調－ト長調 ♩=152 2声
5. 味見の歌：4/4 ハ長調－ト長調－ハ長調－ト長調－ハ長調－ト長調－ハ長調－ハ短調－ト長調－ハ長調 ♩=72 2声
6. チック タック：4/8 ハ長調 ♩=92 2声
7. 草刈り：6/8 ニ長調－ト長調－ニ長調－ト長調－ニ長調 ♩=80 2声
8. ひなどりさんおいで：2/4 ト長調 ♩=76 2声 4小節の曲
9. 小鳩さんおいで：3/8 ト長調 ♩=69 2声 テンポ遅い アウフタクト (弱起の曲)
10. 小川の中の小さな魚：3/8 ト長調 ♩=72 2声
11. たてによこに：6/8-2/4 ハ長調 ♩=69-♩=100 2声 アウフタクト (弱起の曲)
12. お菓子づくり：12/8 ハ長調 ♩=80

13. 鳥の巣：2/4 ト長調 ♩ = 76 2声
14. 花かご：6/8 ト長調－ニ長調－ト長調 ♩. = 76 2声
15. 鳩のお家：6/8 ニ長調 ♩ = 80 2声 アウフタクト（弱起の曲）
16. 親指はすもも：12/8 ハ長調－ト長調－ニ長調－ト長調－ハ長調 ♩. = 72 2声 アウフタクト（弱起の曲）
17. 親指のごあいさつ：3/4－6/8 ハ長調－ト長調－ハ長調 ♩ = 108－ ♩. = 72 2声 アウフタクト（弱起の曲）
18. おばあさん：4/4 ハ長調 ♩ = 96 2声
19. やさしいお母さん：6/8 ト長調－ハ長調 ♩. = 76 2声 アウフタクト（弱起の曲）
20. 親指でひとつ：4/8 ヘ長調－変ロ長調－ヘ長調 ♩ = 152 2声 アウフタクト（弱起の曲）
- 21-1. 指ピアノ：4/8－3/8－4/4 ト長調 ♩ = 152－ ♩. = 76－ ♩ = 76 2声
22. 無邪気な姉妹：12/8 ト長調 ♩. = 50 2声
23. 搭の上の子ども達：コールは作曲していない
24. こどもとお月さま：コールは作曲していない
25. 小さい男の子とお月さま：コールは作曲していない
26. やっと2歳の女の子とお星さま：コールは作曲していない
27. 光の小鳥：2/4－3/8 イ長調－ホ長調－イ長調－ニ長調 ♩ = 116－ ♩. = 58 2声
28. 小兎：4/4 ニ長調－イ長調－ニ短調－ニ長調 ♩ = 120－ ♩ = 132 2声
29. 狼：4/8 ニ短調－ニ長調－ト長調－ニ長調 ♩ = 144 2声
30. 猪：6/8 ホ長調－イ長調－ホ長調 ♩. = 84 2声 アウフタクト（弱起の曲）
31. 小窓：3/8 ト長調－ニ長調－ト長調 ♩ = 126 2声 アウフタクト（弱起の曲）
32. 窓：6/8 ト長調－ニ長調－ト長調－ハ長調－ト長調 ♩. = 72 2声
33. 炭焼き小屋：6/8 ト長調 ♩. = 69 2声 アウフタクト（弱起の曲）
34. 大工さん：6/8 ト長調－イ短調－ト長調－ニ長調－ト長調 ♩. = 84 2声 アウフタクト（弱起の曲）
35. 小さな橋：6/8 ト長調－ニ長調－ト長調－ニ長調－ト長調 ♩ = 160 2声 アウフタクト（弱起の曲）
36. 中庭の門：4/4－6/8－4/4 ト長調－ハ長調－ト長調 ♩ = 100－ ♩. = 72－ ♩ = 100 2声
37. 庭の門：コールは作曲していない
38. 小さな園丁：4/8 ハ長調 ♩ = 69 2声
39. においの歌：2/4 ト長調－ハ長調－ト長調 ♩ = 152 2声
40. 車屋さん：4/4 ヘ長調－ハ長調－ヘ長調 ♩ = 76 2声
41. 家具屋さん：2/4 イ長調－ニ長調－イ長調 ♩ = 108 2声

42. 騎手とよい子：3/8 ヘ長調－ハ長調－ヘ長調－変ロ長調－ヘ長調－変ロ長調－ヘ長調
 $\text{♩} = 72$ 2声 アウフタクト（弱起の曲）
43. 騎手とふきげんな子：3/8 ヘ長調－ハ長調－ヘ長調－変ロ長調－ヘ長調 $\text{♩} = 72$
 2声 アウフタクト（弱起の曲）
44. さあ かくれなさい：4/4-2/4-4/4 ヘ長調－変ロ長調－ヘ長調 $\text{♩} = 92$ 2声 ア
 ウフタクト（弱起の曲）
45. かくれんぼ：9/8-3/8-2/4-3/8 ト長調－ニ長調－ト長調－ハ長調－ト長調 $\text{♩} =$
 $60 - \text{♩} = 92 - \text{♩} = 100 - \text{♩} = 92$ 2声
46. かつこう：6/8 ト長調 $\text{♩} = 80$ 2声 アウフタクト（弱起の曲）
47. お店屋さんと女の子：コールは作曲していない
48. お店屋さんと男の子：コールは作曲していない
49. 教会の窓と戸口：3/4 ト長調－ニ長調－ト長調－ニ長調－ト長調 $\text{♩} = 104$ 2声
 アウフタクト（弱起の曲）
50. 小さな絵かき：コールは作曲していない

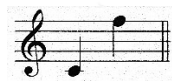
③「結びの歌」

結びの感情：3/4 ト長調 $\text{♩} = 84$ 4声

2) 音域（2声・4声の曲はメロディーのソプラノで音域をみる）



20. 親指でひとつ



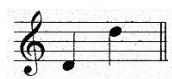
3. 搭の風見鶏・12. お菓子づくり・40. 車屋さん・49. 教会の窓と戸口



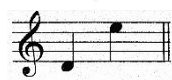
16. 親指はすもも



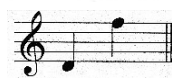
42. 騎手とよい子・43. 騎手とふきげんな子・44. さあ かくれなさい



9. 小鳩さんおいで・22. 無邪気な姉妹



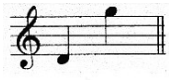
1. あんよでタントントン・27. 光の小鳥・31. 小窓・32. 窓



39. においの歌



28. 小兎



4. おしまい・7. 草刈り・19. やさしいお母さん・29. 狼・34. 大工さん・35. 小さな橋・「結びの歌」結びの感情



「母の感情を歌った歌」はじめの歌



36. 中庭の門



33. 炭焼き小屋



11. たてによこに



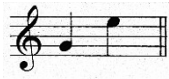
30. 猪



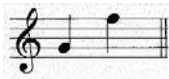
10. 小川の中の小さな魚



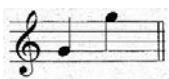
13. 鳥の巣・45. かくれんぼ



21-1. 指ピアノ



2. ぱったりこ 子どもがころぶ・5. 味見の歌・6. チックタック・18. おばあさん



8. ひなどりさんおいで・14. 花かご・17. 親指のごあいさつ・38. 小さな園丁・46. かっこう



41. 家具屋さん



15. 鳩のお家

2. 分析から見えてくるもの

今回使用した熊谷周子編著「母の歌と愛撫の歌」に載せられているコール作曲の曲は全部で44曲ある。表1は1. 各曲の音楽からの分析を、拍子と調に整理したものである。

拍子は第1位が2拍子系、第2位が4拍子系、第3位が3拍子系となり、調性では第1位が圧倒的にト長調、第2位がハ長調、第3位がヘ長調となり、後にはニ長調、イ長調、ホ長調、ニ短調と

表1 熊谷周子編著の楽譜のコール作曲(44曲)の拍子と調の関係

	ハ長調	ト長調 ファに#	ヘ長調 シにb	ニ長調 ファ・ドに #	イ長調 ファ・ド・ ソに#	ホ長調 ファ・ド・ ソ・レに#	ニ短調 シにb	合計 (曲数)
2拍子系の拍子 (2/4・6/8)	1	12	0	2	2	1	0	18
3拍子系の拍子 (3/4・3/8・9/8)	2	7	2	0	0	0	0	11
4拍子系の拍子 (4/4・4/8・12/8)	6	4	3	1	0	0	1	15
合計(曲数)	9	23	5	3	2	1	1	44

続く。

第1位の、拍子の2拍子にしても調性のト長調にしても、一般的には2拍子系が一番分かりやすい拍子であり、また#やbが少ない調の方が読譜し易いということになるのであるが、コール作曲のものに関しては、使われている音符が細かいためリズムが難しくなり、この考え方は当てはまらない。

拍子には強く意識される拍(強拍)とそうでない拍(弱拍)があり、例えば2拍子なら強・弱、3拍子なら強・弱・弱、4拍子なら強・弱・中強・弱となる。

小節の1拍目から始まらない曲(弱拍から入る曲)をアウフタクト(弱起の曲)というが、このアウフタクトが44曲中21曲もある。

弱拍から入るというのは、頭の中で1拍目から拍子を取りタイミングを推し量らないとテンポやリズムがいびつになるため、大人でもかなり難しい。

ここで調性について、コールがこのフレーベルの詩の作曲に使っている調の、一般的な特徴を上げてみる。

ト長調－穏やかで明るく健康的な響きで初心者向き、ハ長調－調号が全く付かないので読譜がし易く明るい真っすぐなイメージで開放的な響き、ヘ長調－軽やかで牧歌的な響き、ニ長調－神を感じさせる響き、イ長調－明るく軽やかな響き、ホ長調－のどかで自然を感じさせる響き、ニ短調－生と死や人生を感じさせる重い響き、29番「狼」でこのニ短調を曲のはじめに使っているが、44曲中唯一の短調である。狼の怖さを子どもたちに、この不安定な感じの短調を使うことでイメージさせたかったのであろう。

このように調によって感じ方は異なるのであるが、ト長調とハ長調が多かったということから、コールはこの点については子どもたちが親しみ易いように、配慮したと考えられる。

コールの曲について、保育者養成所の教え子であるヘンリエッテ・ダーレンカン(Henriette Dahlenkamp)から1849年送られてきた書簡には、「そして子どもたちは勧められずとも、全く自分自身のためにほんとうに可愛らしくうたうのです。それらのなかには、運動遊びからきた多くの歌があり、ボールの歌や「愛撫の歌」からきた歌はほんの少しです。コール先生の作品は子どもたちにはあまりに難しいのです。で、私はとにかく臨時の詩人にでもなったつもりで、すでに他の作品

を付け加えたりしました。』²⁾と書かれている。

この書簡からも、8分音符や16分音符が多く使われているのでリズムが難しく、おまけにテンポ設定も速く、音域もあまりに広いため、子どもたちのことを考えて作られたとは思えない作品であるということが読み取れる。

ただ彼の作品は全て2声で書かれており、美しいハーモニーに仕上がっている。おそらく、母と子どもで2重唱のハーモニーを楽しみながら遊べたらという思いで書かれたのではないかと想像できる。

コールは教師の息子としてフライベルクに生まれ、神学を学ぶためにライプツィヒ大学に入学し、その傍らで音楽を熱心に研究したらしいが、作曲家としての勉強をきちんと積んだかどうかは疑問である。

コールが生まれた1813年は音楽でいうと、古典派（モーツァルト（Mozart）、ベートーヴェン（Beethoven）など）からロマン派（ショパン（Chopin）、シューマン（Schumann）など）に代わっていく過渡期である。

すなわちバロック期（バッハ（Bach）など）から教会や王侯貴族が楽しむものであった音楽が、フランス革命以降は庶民の間に広がっていき、作風も今までの端正・節度・調和・客観的から解き放たれ、内に秘めた感情を表出するようになり、個性と独創性が強調されるようになった。

そのような音楽の時代の流れの中で、コールも子どもたちへの歌であるため、拍子や調性に関しては歌い易いものを選んだのであるが、フレーベルの詩に、作曲家としての自分の湧き上がる音楽を抑えきれずのせてしまったのではないかと考えられなくもない。

以上が分析から見えてきたものであるが、フレーベルの教えが詰め込まれたこの本が今日ほとんど使われないのは、やはり詩が求めているものと曲が一致していないからだと考えざるを得ない。

「母」という言葉が意味するものは

クラシック音楽のタイトルに「母」と付いているもので思い浮かぶのは、モーツァルト（Mozart W.A. 1756-1791）作曲「きらきら星変奏曲」K. 265で、本当のタイトルは、『「ああ、お母さん、あなたに申しましょう」による12の変奏曲』である。この曲は18世紀末フランスで流行した恋の歌をテーマにしたもので、この母は意味が少し異なる。

次にドヴォルザーク（Antonín Leopold Dvořák 1841-1904）作曲「我が母の教え給いし歌」ジプシー歌曲集 Op. 55の第4番である。年端もいかない3人の実子を亡くしたドヴォルザークがこの詩に心打たれ、チェコ語の詩をドイツ語に訳してまで曲を付けた。その歌詞は、

母が私にこの歌を 教えてくれた昔の日 母は涙を 浮かべていた

今は私がこの歌を 子どもに教えるときとなり 教える私の目から

涙があふれ落ちる

（訳：堀内敬三）³⁾

娘への母への共感、生きることへの共感、メロディーと詩が相まって心が熱くなる名曲である。

最後にバイエル (Ferdinand Beyer 1806-1863) 作曲の教則本「バイエルピアノ教則本 Op. 101」、正式なタイトルは「フェルディナント・バイエル 作品101－母たちに捧げる最も若い生徒のためのピアノ入門書－」である。

この本はバイエル自身が母からピアノの手解きを受けた時の、思い出や愛情を伝えたく書かれたもので、指導する側に母のようなまなざしで、心で、という思いが込められている。

すなわち教えるという目線ではなく、一緒に楽しみ、その楽しみの中から子どもたちが自然に、学びが達成できているという考え方で進めて欲しいという、バイエルの願いが込められた教則本である。この作品には、フレーベルの「母」と共通する思いが感じられる。

以上タイトルに「母」という言葉が付く作品を見てきたが、どの作品も「母」の持つ、優しさ、温かさ、そして強さが、子どもたちにいかに大切であるかを物語っている。

おわりに

今回フレーベル「母の歌と愛撫の歌」について音楽から探ってみた。探究するにあたり、まずは経験することと思い、コール作曲の作品を筆者自身が楽譜通りに弾きながら歌ってみたが、答えは「なんと歌いにくいことか」、音価が細かすぎることと音域が広いため声が出しづらくなる。日本語訳で歌ってみたのだが、音と言葉が噛み合わない。ドイツ語ならとも思わなくもないが、幼児対象となるとドイツ語で歌ったとしても難しいであろう。

この熊谷周子編著の楽譜の中で1曲だけ、フレーベルが自ら詩に付けていた番号譜を熊谷採譜で載せられている。「21－2指ピアノに合わせる歌」であるが、拍子は4/4 八長調 単旋律 音域も中央の一点ハから一点ソと、子どもたちの一番出し易い音域で、フレーベルがいかに子どもたちのことを熟知しているかが分かる作曲となっている。

コール作曲のものも音楽としてハーモニーを聴くのであれば、美しい曲も有り、「母の感情を歌った歌」ははじめの歌などは宗教的な厳かな雰囲気も漂う曲である。

ただいくら母親が歌うからと言っても、声楽家でない限りこの音域で子どもと接しながら歌うには、無理がある。

音楽は楽譜上に何の指示もない時でも、音が上がっていく時はクレッシェンド（だんだん強く）、反対に音が下がっていく時はデクレッシェンド（だんだん弱く）とバッハ (Johann Sebastian Bach, 1685－1750) を演奏する時などは特に、当然の行為である。つまり音が上がるということは気持ちの高ぶりを感じ下がる時は落ち着いてくるという、人としての自然な感情であり、音楽は目に見えない音でイメージさせる。すなわち予感させるのである。

この本の遊びの歌の50編は、1～10までが生後6ヵ月～3歳ぐらいまで、11～41までは知識や実業の内容になり3歳以降の年齢となり、41～50は情操・性格・意志の形成に関わる内容となるため、6・7歳の子どもたちにまで使える内容となっている。

つまりこの本には、乳幼児の発達という自立性、そして発達に従って身体的・情緒的・知的にお

いて成長するための教育的配慮の内容と方法が書かれているのであるが、その根底には「神の子として教育し、教育して神の子とする」という教えがある。

先に書いたように、音楽には次に何が起こるか感じ考えさせる力がある。

フレーベルがこの書の教育的目的である「神の子として教育し、教育して神の子とする」を伝えるために考え出した方法は、詩・音楽・絵で子どもたちの感覚を育てる三位一体にあったと考えられるが、今なおこの手法が使われていることは驚くべきことである。

発達段階に応じた子どもたちの欲求を、充実させながら導いていくということを、200年以上前から考えていたフレーベルの偉大さを感じずにはおられない。

ただいかにせん現代この「母の歌と愛撫の歌」が使われていないのが残念でならない。

そこには、詩と音楽の合体がうまくいかなかったからだと思われるが、言葉数が増えると当然音符は細くなるので、日本で普及させるためには、子どもに合った訳詞を吟味し音楽を付けなければ、園で使われるまでにはいかないであろう。

例えば日本で今日でもピアノ初心者によく使われる教則本「バイエル」は、1850年に出版されたものであるが、今なお健在である。

もちろん深く掘り下げれば問題点はいくつもあるのだが、「バイエル」が日本でよく使われる理由として、何より音楽が親しみやすく、メロディーが口ずさみ易いからだと考え、フレーベルの「母の歌と愛撫の歌」がもっと子どもたちの世界で使われるようになるにはどうすれば良いのか、答えは見えてくる。

ただ詩と音楽と絵とフレーベルの教えの合致となると、かなり大変なことではある。しかしながらこの偉大な本の内容をもっと普及させるためにも、考えなければならない問題である。

筆者はまだ入り口に入ったばかりであるが、これからも「母の歌と愛撫の歌」の研究を続けていきたい。

引用文献

- 1) 小原國芳／莊司雅子監修. (昭和56年). フレーベル全集第5巻 続幼稚園教育学母の歌と愛撫の歌. 玉川大学出版部 (p. 265).
- 2) 岩崎次男訳者代表. (1991年). フレーベル賛歌－子どもと人間の友あての女性たちの書簡－. フレーベル館 (p. 147).
- 3) うたのページ no.3 11月13日, 「母が教えてくれた歌」について記述します.
(<http://mohsho.image.coocan.jp/Dvorak-melody1.html>) (2021年10月12日14時)

参考文献

- ・熊谷周子編著. フリードリッヒ・フレーベル著 (1991年). 「母の歌と愛撫の歌」. ドレミ楽譜出版社.

- ・ 小笠原道雄著. (2021年). 原典資料の解説によるフリードリヒ・フレーベルの研究－国際化の視点からみるフレーベルの思想・制度・実践に関する考察. 福村出版.
- ・ 児玉衣子著. (2009年). フレーベル近代乳幼児教育・保育学の研究－フリードリッヒ・フレーベル著『母の歌と愛撫の歌』の教育方法的検討から. 現代図書.
- ・ 荘司雅子著. (1985年). フレーベル教育学への旅. 日本記録映画研究所.
- ・ 荘司雅子指導講義. フリードリヒ・フレーベル生誕200年特別記念製作「フレーベル教育学シリーズ全9巻の第8巻フレーベル『母の歌と愛撫の歌』 VHS. 日本記録映画研究所.
- ・ 中村菊子著. (2003年). ピアノのための4期の本－バロック期・古典期・ロマン期と近・現代. 全音楽譜出版社.
- ・ 井上裕子. (平成24年). バイエルの研究－日本におけるバイエルの受容と課題について－. 大阪城南女子短期大学研究紀要より (pp. 73-82).
- ・ 浅香淳編集. (昭和62年). 音楽の友・別冊 PIANO & PIANIST ピアノ名曲15. 音楽之友社.
- ・ 吉松 隆著. (2014年). 調性で読み解くクラシック. ヤマハミュージックメディア.